

# 石立山

石立山(1707.7m)は高知県香美市物部と徳島県那賀町木頭の間境に位置する石灰岩の山。名前のとおり石と立てたような石灰岩の露岩が点在し、急峻な登りが続くことから四国で最も険しい山、最も危険な山とも呼ばれる。別府からの登山道にはジャパンの老木が石灰岩の尾根に根を張っている岩は見事。また、この山には生息しないクダシクワタチバナムシトリスシなどの固有植物も数多くある。

ニホンジカの食害が著しく、特に山頂周辺の植物はことごとく死滅し、まるで死んでしまふ山のおおむねさうな状態となっている。

徳島県ではシジロツツジが食害に遭って死んでしまふのを防ぐため、シジロツツジの苗木を植え付け、食害防止と相まってシジロツツジの生育を促している。シジロツツジは、この山の石灰岩の地質に合った植物として、山頂周辺の新しい植生としてこの山に定着している。



安全第一登山は第二  
竜頭谷  
大霧頭  
石の屏風  
一石一木  
自然の匠み  
芸術品

三ヶ峯山縦走路(三ヶ峯縦走)

平和丸よく見える

ヒメシロフ  
フナ林

シカの皮は  
神宮が深淵  
モミ石、スロホコ

フナダツカシバ

石立山 1707.7m

祠は石立神社  
石立大明神

尾根  
木頭の谷一帯

山登る  
一面のツツジ山  
2018.5.1

石ゴコロ

7707  
録

皆伝跡  
一面のツツジ

裸地へ出る

スギ林

日和田側のスギ林  
内の歩道はヒビ  
よく整備されている。

スギ林の中  
はツツジが

広い採跡地

谷わたり

スギ林

里山

日和田

至徳島

代採跡地の歩道は不明瞭。  
ヒシクワタチバナムシトリスシ  
(芝山 ありかど!!)

参考文献

- 四国の保護林
- 土佐の時辰日記
- 工佐の道  
その歴史を歩く
- 高知の森林
- 四国花の山へ行こう



別府県 西熊山は  
工佐藩により御領山  
の中でも最も優れた  
御堂山。土佐十室山  
指定され、厳しく  
管理されている。  
奥物部にはヤブ  
などの良材が数々  
分布している。

小松神社  
別府から土佐へ下別役には「物部村志」  
によると、秦の始皇帝の子孫「功満」が  
日本に帰化し、「功満」が「小松」になつた  
もので、小松氏の先祖とされていると  
いふ。横山一帯に小松氏が数々あり、  
平家落人の関係から、県内の小松  
氏が祭祀の日に相集う。

森林体験学習館

別府森林事務所

別府は香美市最高峰のツツジ山と  
接してあり、ツツジ山の木村は過去に  
別府領へ移入されたといふ。

四ツ足峠  
修善寺の山である石立山と  
行者山の中間にわたるため  
信者にとっては聖地であった。

四ツ足堂  
四ツ足堂は土佐と四国  
国境に建ち、工佐藩に  
2本、阿波藩に2本の  
足で建てられている。

石立山植物群落保護林  
石灰岩地帯特有の植物  
が数多く自生している。  
尾根筋は踏み荒らさず  
やさしく歩くように。

登山口

トンネル口  
見下ろす

谷沿い

平担那

行者山

四ツ足峠の道  
この峠は老若年間に開設した  
阿波と土佐を結ぶ古代の官道  
ではないかという説がある。  
流域には古社や古寺が残り  
基路が荒廃していること、  
そのコースが中興政庁から土佐  
国府に至る最短距離に  
あたることから推測されている。

物部川と那賀川  
との分水嶺の  
尾根

1300年ものあじろ「人々」が  
行き来してまた四ツ足峠  
古道は杉の枝葉に覆れ  
忘れられたようである。

